

2017年3月期決算説明会 主なQ&A

Q 現中期経営計画期間の設備投資額について、鉄道事業における安全投資の進捗状況が、3年総額650億円という計画に対して少し遅いが、2019年3月期に安全投資を増やし、計画どおり650億円投資すると受け止めてよいか。また、成長投資が計画の800億円を上回ることもあるということだが、設備投資額全体の3年総額1,900億円という計画をどれほど上回る可能性があるのか。

A 鉄道事業における安全投資額は、前期において、新幹線の脱線防止ガードを熊本地震による被害のあった区間を中心に付加的に実施したことにより、今期計画が前期実績に比べて減少している。3年総額650億円という計画については、概ね計画通りに進捗すると考えている。当社にとって安全は最重要であり、安全に資する投資については引き続き着実に実施していきたいと考えている。

設備投資総額の見込みについては、具体的には申し上げられないが、成長投資については、当社の投資判断基準に沿う案件には積極的に投資をしていきたいと考えており、計画を上回ることもあると考えている。

Q 単体の修繕費について、今期は前期と比べて29億円減の349億円の予想となっているが、今後2、3年はこの水準で推移していくと考えているか。

A 前期は、安全対策として新幹線高架橋の修繕等を実施しており、今期は、その反動もあり前期に比べ修繕費が減少すると見込んでいる。今後の修繕費については、九州は災害も多く、安全対策として必要な修繕は引き続き実施していくため、現在の水準から大きく減少することはないと考えている。

Q 熊本および長崎の再開発について、この半年間で進捗状況にアップデートがあれば教えてほしい。

A 熊本開発については、都市計画の採択が終了し、容積率等の見直しをしていただいたため、詳細な設計を開始したところであり、夏頃には、具体的なイメージを公表できるところまで進捗している。また、来年の春には高架工事が終了し、再来年の春に

駅ビル工事が着工予定となっているため、引き続き確実に進捗させていきたいと考えている。

長崎開発については、もう少し先の話であるため、具体的にはこれからだと認識している。

Q 新幹線の賃率が上昇傾向にあるが、背景と今後の見通しについて教えてほしい。

A 詳細な分析は難しいが、昨年7月に、新幹線でご利用の多い割引きっぷについて博多～熊本間、博多～鹿児島中央間で値上げを実施した。その他、イールドマネジメントも継続的に実施しており、それらが効果を発揮していると考えている。今後については、引き続き傾向を注視していきたい。

Q 今期の建設セグメントの業績予想について、増収減益の理由を教えてほしい。

A 前期は、建設セグメントの営業利益率が、従来の営業利益率の水準と比べて高くなっており、今期は、グループ外からの受注増やそれに伴う競争激化などにより、従来の営業利益率の水準となると見込んでいる。

Q 配当の考え方について、2018年3月期の予想は連結配当性向27.7%であるが、方針である連結配当性向30%程度というのは、30%を上限と考えているのか、考え方を教えてほしい。

A 現中期経営計画期間である3年間については、連結配当性向30%程度を目指しており、30%を上限と決めているわけではない。今後も安定的に配当を実施し、減配は避けたいという思いがあり、配当については状況を見ながら決めていきたい。

Q 今期の鉄道旅客運輸収入について、前期比で30億円の増収だが、新幹線と在来線で分けるとどのようなイメージか。

A 今期は、熊本地震の反動を見込んでいるが、一部復旧できていない区間もあるため、30億円の増収を見込んでいる。業績予想について新幹線と在来線を区別していないが、新幹線はイールドマネジメントの実施等により今後も伸びる余地があると考えており、在来線は近距離収入が引き続き堅調に推移すると見ている。

Q 地方交通線のあり方について、御社の場合は厳しい路線も多いと思うが、これから人口減少を迎え、更に厳しくなる中で、改めて御社の考え方を教えてほしい。

A 九州のローカル線については、30年前の会社発足の際に多くの路線が廃線となっており、現在の路線は、JR九州としてのネットワークを維持するために必要な路線である。当社としては、今までも収支改善を進めてきており、引き続き取り組んでいきたい。ただし、他社で議論されているローカル線の問題について、当社も勉強を進めているところであり、現時点で、なにか具体的に検討している路線はないが、将来的には地元の皆さまと議論させていただくこともあり得ると考えている。また、今後、他社が開示している輸送関連の指標について、当社も公表することを予定しており、これにより、まずは地元の皆さまに鉄道のご利用状況についてご理解いただくところから始めたいと考えている。

Q 新幹線の脱線防止について、他社は全線について設置を進めているが、御社の考え方は。また、資産は鉄道・運輸機構の資産となると思うが、設置についてはどちらが負担するのか。

A 脱線防止ガードについては、これまでも設置してきているが、今後は鉄道総研のシミュレーション結果や今回の熊本地震における知見を活かしながら、設置場所を検討したい。必要な箇所については設置していきたいが、負担については未定である。

Q 昨日、R&I から格付けを取得したと公表されたが、今後の社債の発行の予定、方針を教えてください。

A 社債の発行は予定していないが、成長投資の案件や市場環境等を踏まえて勉強していきたい。今回の格付取得の目的は、今後、お客さまおよび株主の皆さま、お取引先の皆さまとの末永く安定した取引を行っていく上で、第3者からの評価をいただき、信用力があることを社外に示したいと考えたためである。

以上